

平成 29 年 3 月 30 日

災害対応へ国土強靱化重要

地域の守り手の対応も要請 足立議員

足立敏之参議院議員は 29 日、参議院災害対策特別委員会で、地球温暖化に伴う気候変動が、水害や土砂災害の激甚化を招き、その発生頻度やリスクも高まっていることに言及した。その対応として事前の防災対策「国土強靱化が重要」であることを強調し、松本純防災担当大臣に国土強靱化に向けた決意を問った。

この質問に松本防災担当大臣は、「災害の大規模化に伴い事前防災の重要性が増している」との認識を示し、「ソフト対策と組み合わせた施設整備等の推進」に、自治体と一体となって取り組む決意を語った。これに足立議員は「予防に勝る治療なし」と心え、事前防災を強力に進めることを求めた。

また、足立議員は、昨年の岩手県、北海道の水

害における、緊急災害対策派遣隊「TEC・FOCE」（テックフォース）や、地域建設業の活動状況についても質問。

これに国土交通省の山田邦博水管理・国土保全局長は、被災状況調査など TEC・FOCE の様々な被災地支援を説明する一方、洪水等で流出した道路の応急復旧作業や、24 時間体制での排水活動など「地域の建設関連事業者の献身的な活動が大きな役割を果たした」と評価した。

これを耳にした足立議員は、重要な地域の守り手である地域の建設業者が「持続的にしつかり発展」できるよう、施策を講じていくことを国交省に求めた。

